2021 年 9 月 29 日
早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・A&S 研究会
地域社会と伝承館との「対話の場」の形成に関する検討グループの第 2 回打合せ会合

日時: 2021 年 9 月 24 日（金）14:00 - 16:05
開催方法: Zoom
出席者（敬称略）:
松岡俊二：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授
青木淑子：NPO 法人富岡町 3・11 を語る会代表、3.11 メモリアルネットワーク理事
佐藤亜紀：HAMADOORI 13 事務局（途中退出）
吉田恵美子：NPO 法人・ザ・ピープル・理事長、いわきおてんと SUN 企業組合・代表理事
南郷市兵：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校副校長（途中参加）
洪　恒夫：東京大学博物館・特任教授
池辺　靖：日本科学未来館・科学コミュニケーション専門主任
高橋洋充：福島県立福島東高校
鈴木香織：福島県富岡町
永井祐二：早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授

（欠席）
小磯匡大：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
高原耕平：ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター・主任研究員

事務局:
山田美香：早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・福島駐在研究員
朱　鈺：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士課程
中野健太郎：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士課程

1. エコミュージアム構想の具体化に向けた調査計画について
・永井委員より、浜通り地域におけるエコミュージアム構想の具体化に向けた調査計画の説明があった（計画内容は報告資料をご参照ください）。調査計画に対して、以下のような議論があった。

- エコミュージアムという言葉はやはりわかりにくい。活動の趣旨がわかるように、ネーミングを工夫する必要がある。
- エコミュージアムの構想は、施設・組織・サイト（場所、現場）に「活動」を加え、4 つの構成要素とするのが良いではないか。
- 博物館には「答え」はなく、訪れた人々に「考えさせる」という位置付けが重要である。
- 現在の帰還困難区域の景観を、原子力災害後の現実として残したい。エコミュージアム構想の中の「サイト」を充実させるものではないか。
- 調査において、調査の意図を明確に伝え、調査対象を適切に絞る必要がある。そのため、調査方法、聞き取りの手順に注意する必要がある。調査状況を踏まえながら改善を重ね、二次調査、三次調査を追加していけば良い。
- 主任学芸員レベルを調査対象にしたら、展示の設置意図などがわかると考えられる。
- 各施設のメッセージは違ったり、重なったりしている。その違いの分布を可視化することで、原子災害の教訓の言語化にもつながる。また、原子力災害による見えない精神的被害など、言語化できていない部分はどう表現するかが課題である。原子力災害では、加害と被害の関係が複雑であり、

その複雑性の言語化も大きなチャレンジになる。
- 各施設において「語ること」の位置付けがどうなっているかをカルテの調査項目に追加してほしい。ビデオなどによる説明と個人的体験の語りの両方が必要である。
- 各施設の現状報告会を実施したらどうか。
- 関係の諸施設や団体を集めて話し合い、連携する組織体が必要ではないか。

・伝承館と調整しながら、なるべく 10 月中に伝承館とのインフォーマルな意見交換の「場」を持ちたい。調査の実施に際し、ふたば未来学園や HAMADOORI 13 などとの協力関係の構築についても検討していく。

今後の予定

9/30（木）17:00-18:00	1F 事故調査・1F 廃炉に関する原子力規制庁と地域社会との「対話の場」形成に関する打合せ
11/5（金）18:00-20:00	第 2 回創造的復興研究会
11/14（日）13:00-17:00	シンポジウム「広島原爆ドームの世界遺産（文化遺産）登録と 1F 廃炉の将来像を考える」
11/27（土）11:00-12:00	「復興知」プラットフォーム会議及び活動報告会（予）
2022 年	
1/23（日）or　1/30（日）	第 9 回ふくしま学（楽）会（予）